

トシトコサマの由来・鹿足郡吉賀町椀谷

令和3年1月1日

収録・解説・酒井 董美たよし

イラスト・福本 隆男



語り手 太田サダさん（明治30年生まれ）
 収録・昭和38年2月2日

あらすじ

わたしのおじいさんのそのまたおじいさんの昔からあった伝えですが、それは一人に飲まし食わしを惜しゅうじやあ、その家に福が来ん」ということです。

トシトコさまは片足の神様で、居間の神棚に片足の草履をあげるものとされていきます。どうしてトシトコさまが片足しかないのかといいますが、それには次のようなわけがありました。

昔、ある家のおばあさんが昼前に味噌をすっていましたら、神棚におられたトシトコさまが、「やれ来い。今ごろ飯がはなわるけえ（準備ができるから）、早う来いよ」と言ってお人をお呼びました。それを見たらおばあさんが、「こんな外道が、いつもいつも人を呼んでこれ（この家の飯）を食わす。これは貧乏になる。これにはそねいに人に食わする米はなあ」と言っておトシトコさまに味噌をすっていたレンギを放りかけたら、

トシトコさまの足に当たって折れてしまい、片足になられたそうです。それ以来、その家は一方から貧乏になって行き、人も来んようになって全滅してしまつたといわれています。そういうことだから一人に飲まし食わしを惜しんだりして欲を言うちゃあいけん。人に食わするほどはこの家にあるの」と昔のおじいさんは言っていました。わたしはよく聞かされていたものです。

解説

これは由来譚であり、どちらかといえば伝説に属しているようにだ。

ところだ、トシトコさんというのは、正月に来臨する神様であり、正月が過ぎれば去つて行かれるとするのが大方の考え方である。

また、このトシトコさんは、別に「歳神」とか「歳徳神」とも呼ばれている。そしてこの神は農村では農業神、漁村では豊漁の神と信じられているのである。

そのような素朴な信仰から各家では、大黒柱に藁で編んだワラジとか草履が片一方だけ下げられていた。そ

れはこのトシトコさんが片足だからそうしていると言われ、その説明として各地で独特な説明がなされているのである。

正月の神を歓迎するわらべ歌も各地で存在しているので、ここでは松江市島根町多古と隠岐郡隠岐の島町犬来の歳事歌を挙げておく。

正月の神さん
 どこまでござった
 大橋の下まで
 破魔弓を腰に挿いて
 羽子板を杖にして
 えーいと ござった
 （伝承者・松江市島根町多古小川シナさん・明治32年生）

正月つあん 正月つあん
 どこまでござった

大満寺の腰まで
 土産はなんかいの
 椎 茅 勝栗 蜜柑 麴

橘
 （伝承者 隠岐の島町犬来出身）

中沼アサノさん 明治39年
 （元島根大学法文学部教授）

